

半両銭 収集の手引き (一)

光華 椿井琢光

昨年、泉友から「半両銭の易しい資料を書いて！」と依頼された経緯を、本誌社長の後藤雅和氏と相談の結果、この度「半両銭収集の手引き」を掲載させていただくことになりました。まず最初に「Q エンド A」の形式で、中国資料での半両銭紹介記事や、日本の先達が残された資料・古文銭クラブの資料などで概略を簡単に説明し、一部にはカラー写真や拓本を使用した泉譜形式に進めていきます。なお泉譜の解説部分では、文字数が制限されるので、丁寧表現から断定表現になることを、お許し願います。

Q1 半両銭は何時代に使われていた貨幣なのか？

はじめに、半両銭が貨幣として登場した歴史や、形態を図示し、貨幣として使用していた地域などの表を掲載する。中国では一九五〇年（昭和二十五年）ごろまで半両銭は、秦始皇帝・統一年（BC二二一）以降に、鑄行された貨幣と認識されていた。昭和二十九年（一九五四）に四川省・巴東の昭化宝輪院・船棺葬墓の発掘で半両銭は戦国時代には鑄行されていたという説が起り、中国学術界に大論争が起こった。昭和五五年（一九八〇）四川省青川県・赤家坪五〇号墓から昭王元年（BC三〇八）記年の木簡と、七枚の半両銭が伴出し、史書では秦・恵文王二年（BC三三六）からの鑄行と推定しており、始皇帝統一年（BC二二一）より、一五五年以前の戦国時代に存在している説へ変わった。前記のような経緯から、半両銭は秦半両銭（戦国半両銭）と、統一後の秦半両銭（秦朝半両銭）の二種類があると認識される事になった。しかし統一後の秦朝半両銭の確定根拠が確立されていないので、その選別が良くわからない。上海博物館や、他の中国博物館での半両銭展示は秦時代の半両銭（殆ど戦国半両銭）と西漢時代の四銖半両銭の二種類だった。

次に西漢王朝（BC一八六）の史書には、呂后八銖半両銭が鑄行されたところがあるが、この半両銭の鑑別が難しい。平成七年（一九九五）の『半両貨幣図説』（關漢亭・著）の文中に、各地の西漢墓から出た資料と、錢径二六ミリから三〇ミリ、重さ四gから五gで、錢文は穿孔と同じくらいの文字長の美制半両銭で、湯口が上・左・右の三ヶ所にある、半両銭の拓本を数枚掲載、これを西漢八銖半両銭と解説されているのが、手がかかりである。

Q2 ではどのように収集した半両銭を分類し、収納していけば良いのだろうか？

まず秦時代の半両銭を秦半両銭（戦国半両銭）と秦半両銭（統一後の秦朝半両銭）に大別する。収集家は誰でも大きくて綺麗な古銭を欲しがり、その心理は中国でも、日本でも同じとみえて、今までに出版された両国の半両銭泉譜は、時代的分類の前に推定錢径三三ミリ以上、重さ九g以上の半両銭を大半両銭として最初に掲載している。但し二〇gを超える大半両銭には贗作が存在するので鑑別経験を積み、手を出さない方がよい。戦国半両銭は、初期に鑄行したとされる粗放型半両銭や両銜手半両銭から掲載している。この手引きでは、錢径により大半両銭（三三ミリ以上）・大型銭（三二ミリ〜二九ミリ）・中型（二八ミリ〜二五ミリ）・小型（二四ミリ以下）と四グループに大別する。その中で源氏名のついた半両銭、即ち書体や形状で特徴を共有する半両銭を、別枠で掲載。西漢半両銭以降については、Q7で簡単に説明する。

Q3 簡単な解説を付けた泉譜形式と、色が見たいのでカラー写真を使用できないか？

大半両銭や重い半両銭・初期の鑄放し半両銭は、文字の凹凸が激しく拓本採取が難しいので、編集部の許可を得て、少数だがカラー写真にて掲載できることになった。これで銅色の違いや、凹凸などが良くわかると思う。基本的には、中国資料や日本の先達が残された資料を引用、出来る限り簡単に楽しく分類できるように企画している。

Q4 簡単な参考価格を付けて欲しいが、いかが？

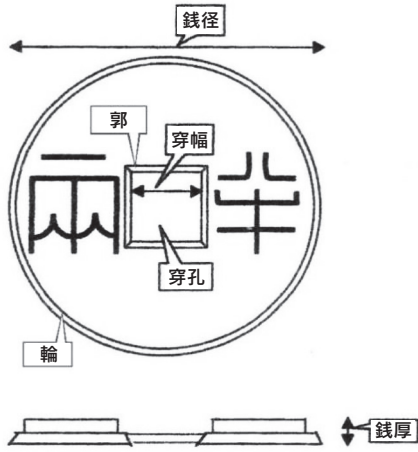
本誌以前、清朝銭図譜として連載した泉譜や、図説咸豐泉譜には位付けと参考価格を付けていたが、その頃は古銭市場価格が安定していたので可能だった。しかし現在は中国人収集家が、中国歴代銭などを高額で買っている事で、中国銭の価格が全体に高くなった。古文銭（開元通宝以前の貨幣）の中で、半両銭・五銖銭の市場価格は安い方だと思ふ。次頁に一九七六年、一九八九年、二〇一七年の半両銭価格の比較一覧表を掲載した。昭和六〇年（一九八五）ごろに中国から古文銭が大量に渡来したため、中国銭の価格が、かなり下がった。現在の状況は少し上昇している気配があり、今後は中国から日本へ古銭が流入する事は少ないと予測できるので、参考価格は付けないことにした。

Q5 半両銭の各部・字画の名称などの資料があれば示して欲しい

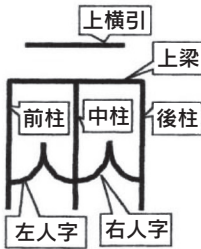
古文銭クラブで作成した図を掲載する。「両」の旧書体が「兩」で五画から最終画は「入」だが、デザイン的に「人」を用いる。

日本の穴銭界では、昔から銭を人に見立てて、左右を決めている。古銭の面を顔としたら、正面から見る時、左側にあるのは右目で、右に見えるのは左目である。即ち左右が逆になる。古銭の背は人の背中で、左耳は左、右耳は右で見た目どおり。中国では古銭の左右を、古銭を見たままに表現している。手引きではこれを採用する。

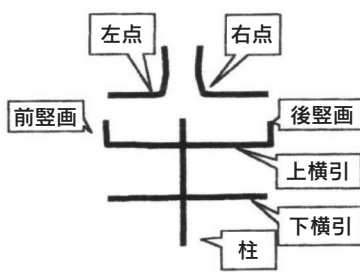
★半両銭各部の各部・字画の名称



両字



半字



Q6 半両銭の市場価格の変遷を示せるか？

ここ約四五年間の半両銭価格の比較を、参考のために掲載する。

関氏・半両特称銭	増尾氏東洋古銭図録	オークションネット入札誌
一九七六年(S51)	一九八九年(H1)	二〇一七年
秦大半両 七万~十万円	同・一万円	先秦大半両 六千円~六万円
先秦突字中型 十万円	同・二万円	先秦突字中型 五千円~五万円
八銖半両 一万五千元	同・三千元	八銖三枚 千五百円~七千元
八銖半両伝形 五万円	同・六千元	八銖伝形美品 五千円~五万円
六銖半両伝形 四万円	同・七千元	六銖伝形美品 千円~一万円
四銖半両伝形 二万円	同・七千元	四銖伝形美品 千円~一万円
四銖半両接頭両 六千元	同・五千元	同接頭両四枚 二千円~三万円
四銖半両お多福 一万円	同・五千元	同お多福二枚 三千円~一万円
四銖半両蛇の目 八千元	同・七千元	同蛇の目細縁 四千円~一万円
四銖半両星文 一万円	同・五千元	同星文十種 六千円~五万円
四銖半両一竖文 一万円	同・一万円	同竖文十種 一万円~四万円

Q7 半両銭の時代区分・使用地などを簡単に示せるか？

半両銭の概要を、古文銭クラブ例会一〇〇回記念資料(秋葉鉄雄編集)として一覧表で使用していたが、便利と思うので次頁に掲載する。

この手引きでは、大半両銭から泉譜形式で紹介し、以降は一覧表に合わせて進める。お多福半両銭(鄧通半両銭説)や村兩半両銭(呉王半両銭説)についての学術的判断は諸説あり明確でないが、半両銭自体は収集対象として魅力があり面白い。統一後・秦半両銭は明確に指摘できないが、概要は今までの鑑別に従い掲載する。漢八銖半両銭については、現時点で中国では、秦朝半両銭として分類されている。六銖半両銭の分類は無く、日本の分類の方が普及している、説明が難しい。